

豊種、可裳  
國員、夢西  
画作、祭



志羅、勞飛



廣幸板



志 羅 努 飛



再板

二編上

廣幸板



13  
1178  
3



此編一の巻小假用せる海士の謡曲奈良れ御宇藤原淡海公唐土  
 の傳來せし面白背の各玉を讀州志渡の海中不失い彼所の延  
 潜の龍神の守護したる各珠と奪ひの悪龍毒魚の追かるとみ  
 詮方多くて乳の下と發玉と統て浮の乳を思ひを乳母が忠義不  
 翻案て綴んとする腹稿もまをる内より龍神の追を列が書房の催  
 促心急て胸小浪も志渡浦に因あり條院讀岐が意歌不  
 鳴呼有磯海の深くもあらぬ浅き才の作らるる物語の案ふれり  
 きの白水郎の息よりもの苦さ裨官の腹裏かき

嘉永庚戌献歳

柳下亭種員記

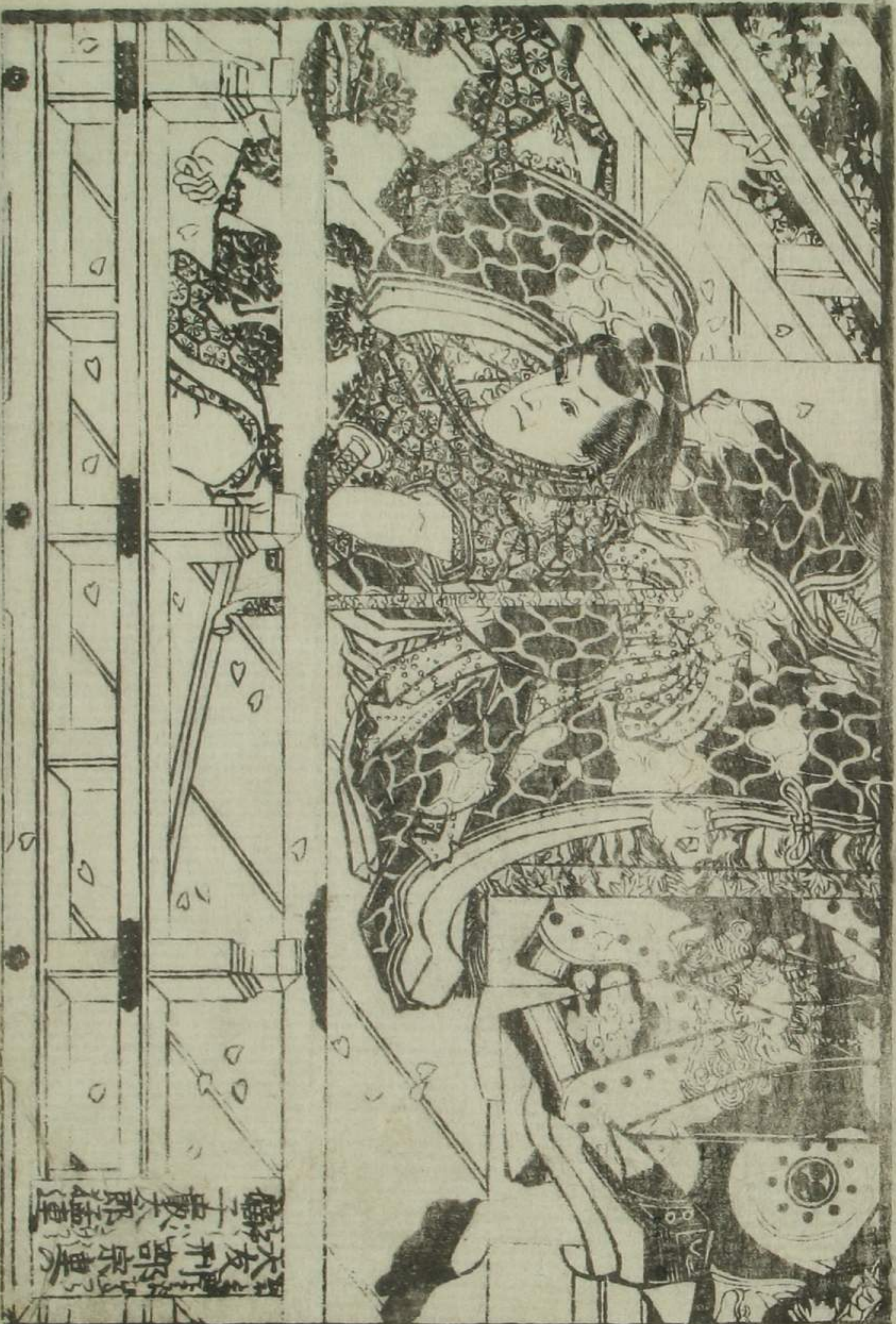


利うが喜うねす  
 のえいふのま利板

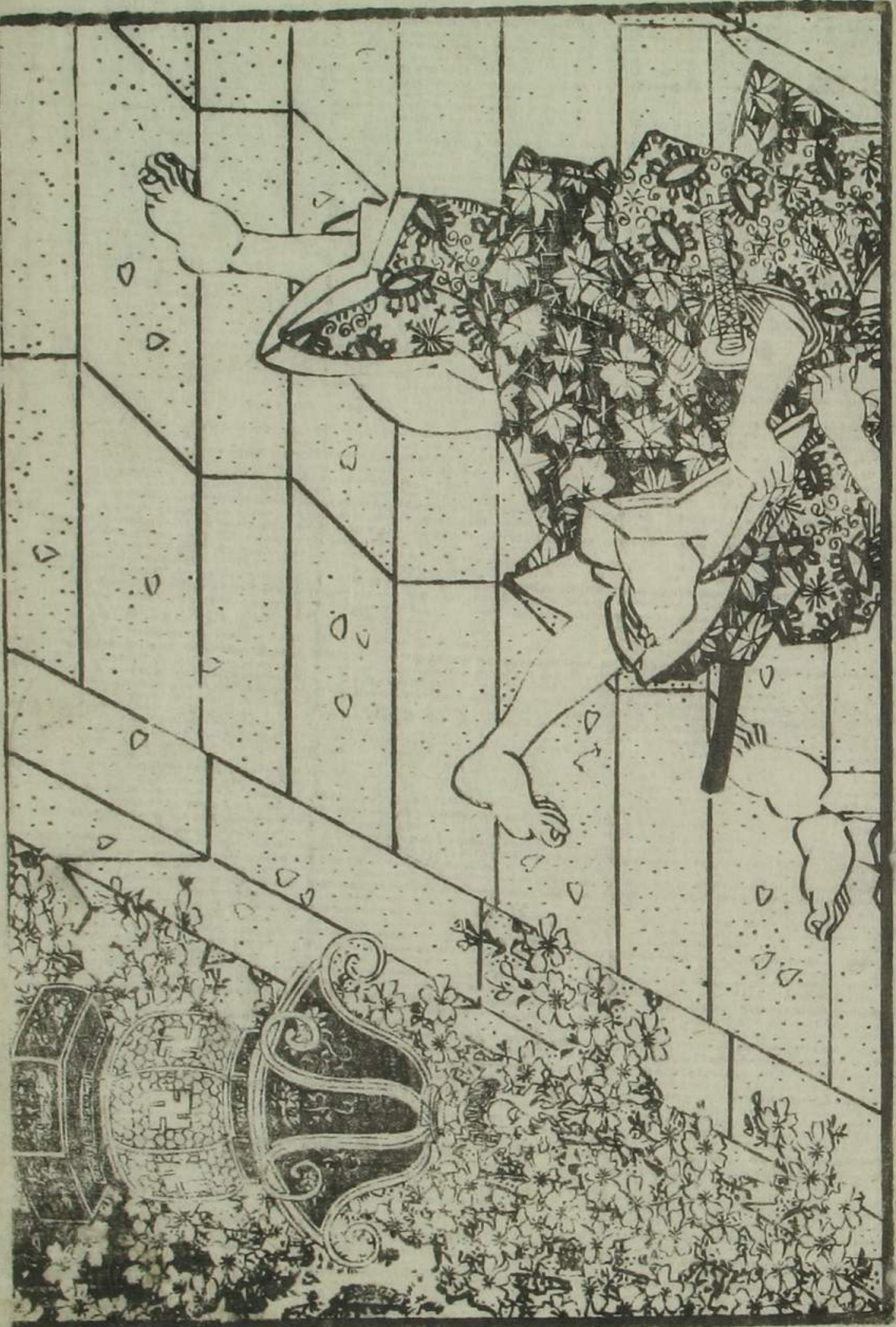


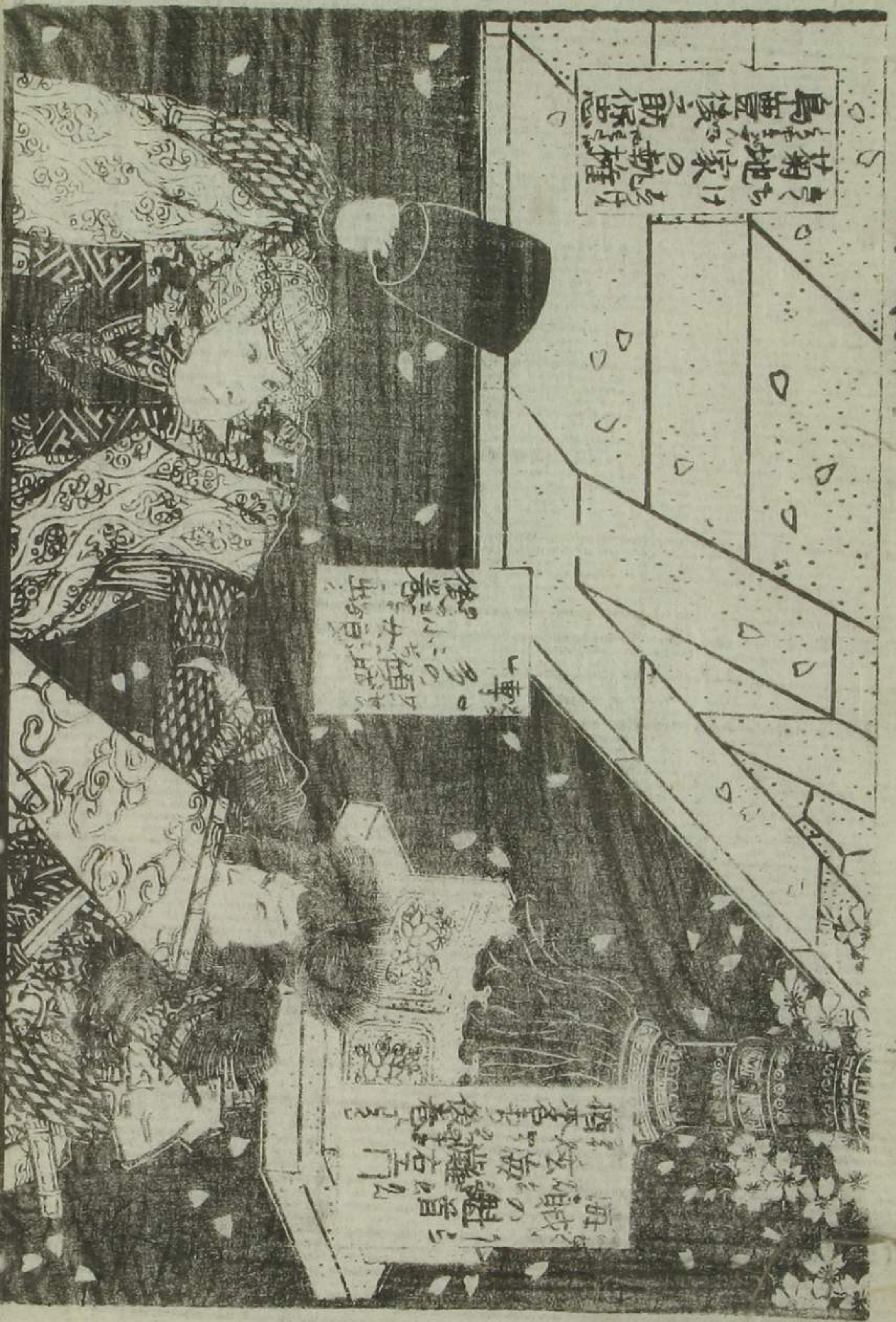
鳥山 名母 徳  
二十 龍門 公浴

若菜 姫



大友 刑部 宗奥  
徳子 殿 太郎 徳連





鳥籠後之助保忠  
 菊地家の勲雄

多の傾城  
 俊小の傾城  
 出の傾城

海城の魁首  
 松波の権右門  
 橋本名義の俊春

第一回





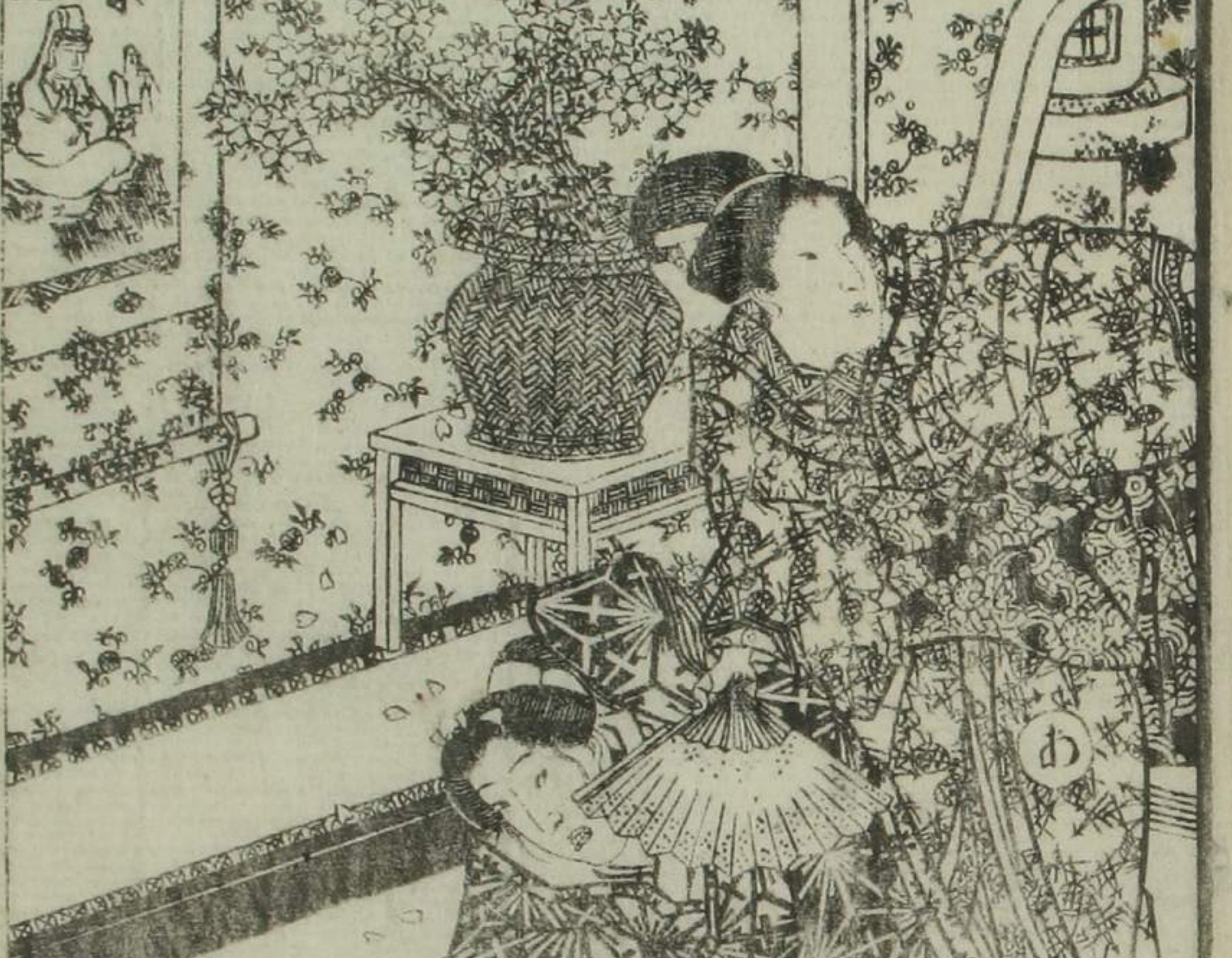


けりししの  
 かりのふりて  
 女と身は  
 つけてうちら  
 ゆめやんこの助  
 ちよとちよと  
 引よのちよと  
 あよひる身  
 そのやうの  
 生ぐろを  
 あひらぬ  
 あらとらひ  
 それとらひ  
 るがく  
 まま  
 こぎと  
 ぎんぎん  
 今へる  
 せんせ  
 ようち  
 ねた  
 あまのみ  
 ちよとちよと



けりししの  
 かりのふりて  
 女と身は  
 つけてうちら  
 ゆめやんこの助  
 ちよとちよと  
 引よのちよと  
 あよひる身  
 そのやうの  
 生ぐろを  
 あひらぬ  
 あらとらひ  
 それとらひ  
 るがく  
 まま  
 こぎと  
 ぎんぎん  
 今へる  
 せんせ  
 ようち  
 ねた  
 あまのみ  
 ちよとちよと

けりししの  
 かりのふりて  
 女と身は  
 つけてうちら  
 ゆめやんこの助  
 ちよとちよと  
 引よのちよと  
 あよひる身  
 そのやうの  
 生ぐろを  
 あひらぬ  
 あらとらひ  
 それとらひ  
 るがく  
 まま  
 こぎと  
 ぎんぎん  
 今へる  
 せんせ  
 ようち  
 ねた  
 あまのみ  
 ちよとちよと



けりししの  
 かりのふりて  
 女と身は  
 つけてうちら  
 ゆめやんこの助  
 ちよとちよと  
 引よのちよと  
 あよひる身  
 そのやうの  
 生ぐろを  
 あひらぬ  
 あらとらひ  
 それとらひ  
 るがく  
 まま  
 こぎと  
 ぎんぎん  
 今へる  
 せんせ  
 ようち  
 ねた  
 あまのみ  
 ちよとちよと







# 種員作 豊國画

大津代  
秋作照忠と  
名作更重殿嶋  
試合



○右の舟は  
あまのつひとあり  
あまのつひとあり  
あまのつひとあり  
あまのつひとあり  
あまのつひとあり  
あまのつひとあり  
あまのつひとあり  
あまのつひとあり  
あまのつひとあり  
あまのつひとあり

○舟の中  
あまのつひとあり  
あまのつひとあり  
あまのつひとあり  
あまのつひとあり  
あまのつひとあり  
あまのつひとあり  
あまのつひとあり  
あまのつひとあり  
あまのつひとあり  
あまのつひとあり

○舟の  
あまのつひとあり  
あまのつひとあり  
あまのつひとあり  
あまのつひとあり  
あまのつひとあり  
あまのつひとあり  
あまのつひとあり  
あまのつひとあり  
あまのつひとあり  
あまのつひとあり

# 志にぬい禪

五拾四編の柳亭種彦作  
六十編より一惠齋芳幾重

# 兩面織花田物語

初編より同  
五編迄同  
近則

重作

# 假名續八犬傳

三十編の假名垣魯文録  
二十五編朝霞樓芳幾重

# 古今能優似顏大全

故豊國公羽筆  
天錦 白三香續

# 太平記英勇傳

中 錦山々亭有人記  
百番續 惠齋芳幾圖



囊 可 種 豐  
西 夢 員 國  
梨 作 画

二編下



13  
1178  
4



1178  
4





老成

十一

○嚴島の  
別當阿彌

○伏見刑部  
自出太郎

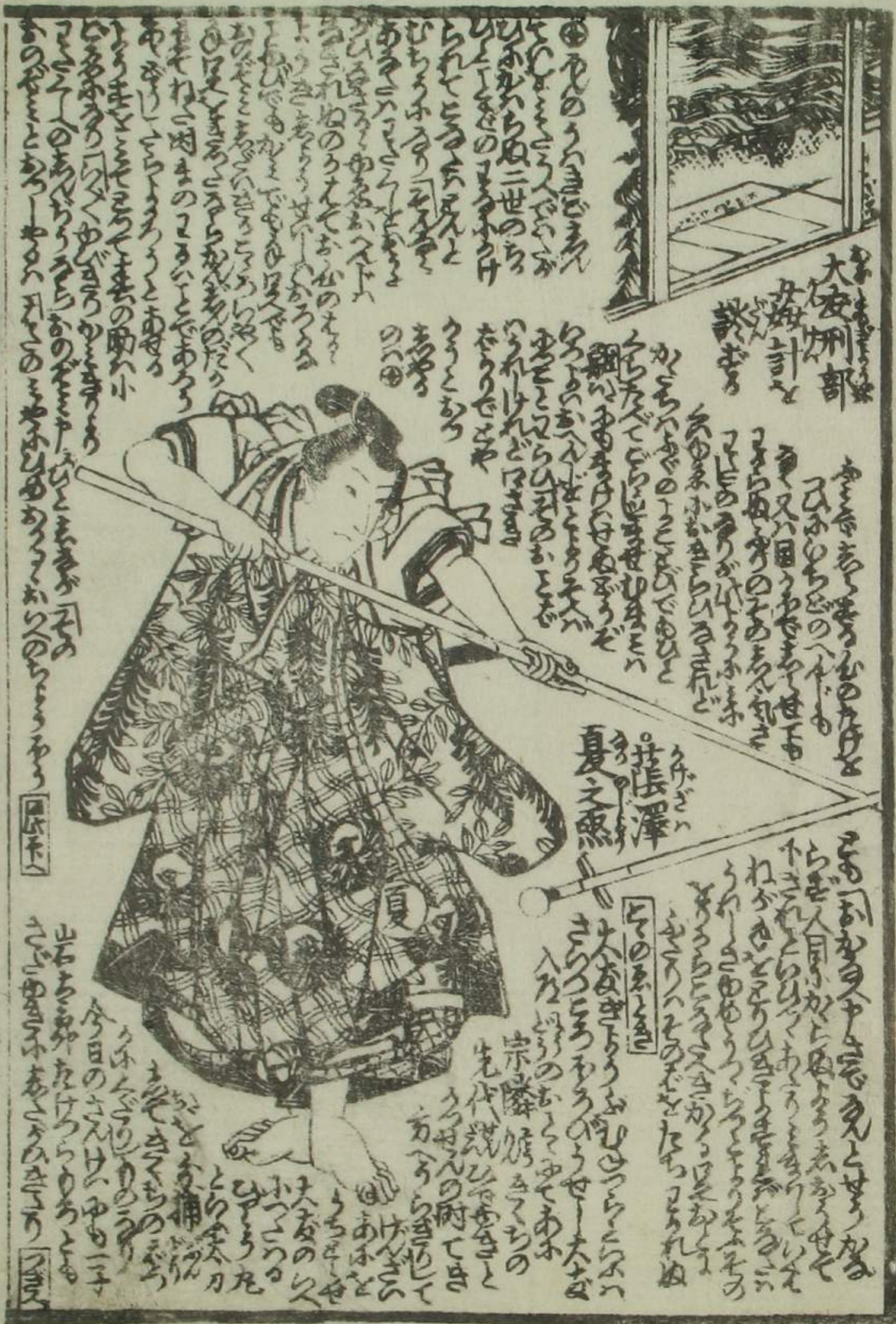
○京原逸蘇

○雪岡  
冬治郎

○山崎  
宗隣

○山崎  
宗隣

○山崎  
宗隣



大坂刑部  
女御計

○夏之燕

○山崎  
宗隣

○山崎  
宗隣

○山崎  
宗隣

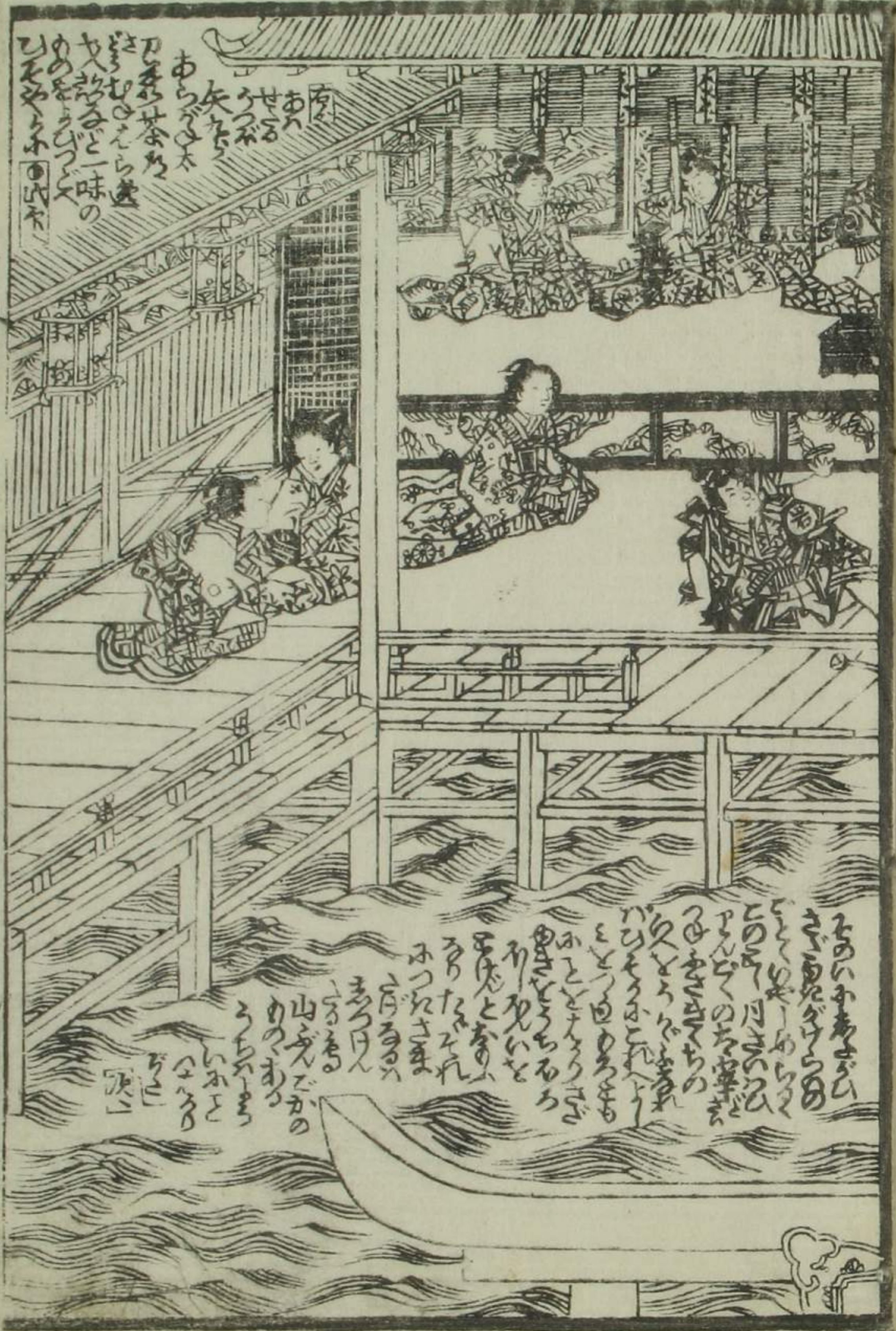
○山崎  
宗隣

○山崎  
宗隣

○山崎  
宗隣

○山崎  
宗隣

○山崎  
宗隣



若くは二









大友の山 下野郡 蔵と 浪士 市原 左門 謀を  
 大友の山 下野郡 蔵と 浪士 市原 左門 謀を  
 大友の山 下野郡 蔵と 浪士 市原 左門 謀を



大友の山 下野郡 蔵と 浪士 市原 左門 謀を  
 大友の山 下野郡 蔵と 浪士 市原 左門 謀を  
 大友の山 下野郡 蔵と 浪士 市原 左門 謀を



Handwritten text in a cursive script, likely a Japanese dialect or a specific form of calligraphy. The text is arranged in several lines, some of which are enclosed in small rectangular boxes. The characters are densely packed and difficult to read without specialized knowledge of the script.

Small vertical handwritten text on the right edge of the page.

Small vertical handwritten text on the right edge of the page.

Handwritten text in a cursive style, organized into several vertical columns. The text appears to be a detailed account or a list of items, possibly related to a collection or a specific event. The characters are dense and consistent throughout the page.

Handwritten text in a cursive style, located in the upper left section of the page. It consists of several lines of text, likely serving as an introduction or a header for the content below.



Handwritten text in a cursive style, located in the middle left section of the page. It appears to be a continuation of the text from the upper section, providing further details or commentary.



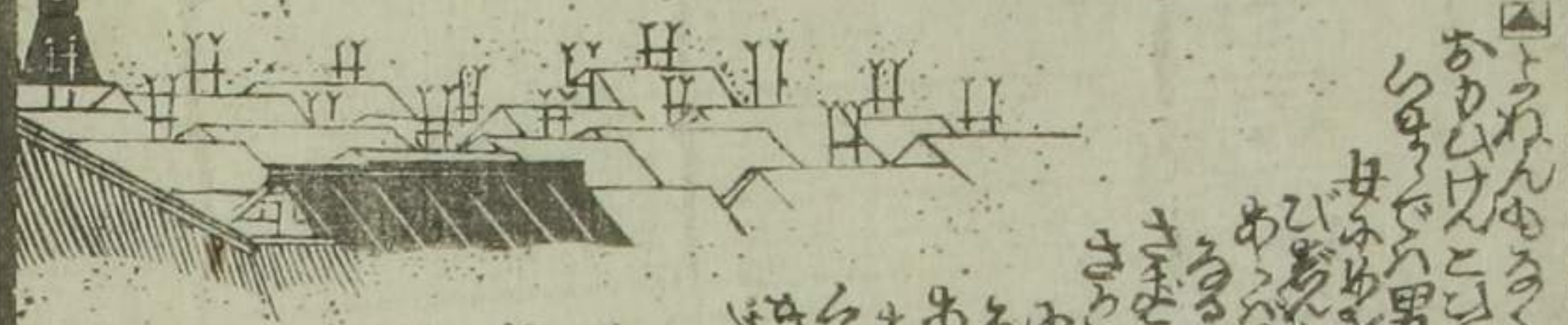
Handwritten text in a cursive style, located in the lower left section of the page. It appears to be a continuation of the text from the middle section, possibly concluding the main text or providing a final note.





豊國画種員作

天竺の... 天竺の... 天竺の... 天竺の... 天竺の...



清書谷金川... 清書谷金川... 清書谷金川...

名譽の義賊ハ  
楠木金輔

浪輝黄金鯢

名譽の孝女ハ  
杉豆於市

朝霞樓芳幾画

三編讀切

山々阜有  
惠齋芳幾人合  
梅湖素玄魚  
松垣交來文作  
假名垣其水  
可竹其水

一對男の縁由因に戯作劇場の二様小竹林さぐぬ七軒人が一回五葉を持さりの  
合作全備の三編冊  
初編 初丁の如泉同 其水作同 其水同 其水同 其水同 其水同 其水同 其水同  
二編 初丁の如泉同 其水作同 其水同 其水同 其水同 其水同 其水同 其水同  
三編 初丁の如泉同 其水作同 其水同 其水同 其水同 其水同 其水同 其水同  
定め一豆小筆カを以てし寫當藏板のあり

北本草紙四巻

廣國強章助様

江戸深川...

